

2 終戦前後の中国情勢と終戦措置

(1) 終戦前後の諸情勢

1113

昭和20年8月12日

在中国谷大使より
東郷大東亜大臣宛(電報)

ポツダム宣言に関する報道をふまえ中国各地での
最悪事態の未然防止方管下公館長へ指示について

南京 8月12日午後4時30分発

本省 8月12日午後5時10分着

在支各公館長宛合第一五九號(緊急)

日本政府ノ「ポツダム」宣言受諾申入レ竝ニ右ニ對スル聯
合國側ノ回答等ニ關スル敵側報道流布セラレ居ル處其ノ結
果地方ニ依リテハ支那側政府機關乃至軍隊ノ動搖離反等ナ
キヲ保シ難キニ付テハ往電合第一五五號中ニモ指示シ置キ
タル通「對華緊急措置要綱」ノ趣旨ヲ十分ニ體シ現地陸海
軍及中國側ト緊密連絡ノ上最悪ノ事態發生ヲ未前ニ防止方
ニ付萬遺憾ナキヲ期セラレ度
尙日本軍隊武装解除等ニ關スル蔣介石及朱徳ノ布告等ノ放

送セラレ居ルニ鑑ミ極力支那側トノ摩擦ヲ避ケ不測ノ累ヲ
居留民全體ニ及ホササル様此ノ上トモ在留民ノ善導方御配
慮アリタシ
大臣へ轉電セリ

1114

昭和20年8月12日

在上海土田公使より
東郷大東亜大臣宛(電報)

日本のポツダム宣言受諾後における上海の治
安維持等に関する重慶側情報について

上海 8月12日発

本省 8月12日着

支宛第一五五號(大至急)

豫テ當方ニ於テ内密連絡ヲ取リアル重慶系人物何世頼ヨリ
館員ニ對シ蔣介石トシテハ既ニ全國軍官ニ對シ冷靜重慶ノ
指令ヲ俟テ行動スヘキ旨通令越シタルカ殊ニ上海カ新四軍
又ハ米軍(米國艦隊ハ近海ニアリ)ノ手ニ入ルカ如キコトナ
キヲ期シ居リ上海治安維持ニ付テ十日夜何ヨリ周佛海ニ對
シ右趣旨申入ヲ爲シタル處周ハ勿論責任ヲ以テ之ニ當ルヘ
キ旨約シタル由ナリ一方上海ノ四面ハ全面和平到來ノ消息

ヲ入レ爆竹ノ打上中國國旗掲揚(米國國旗ノ掲揚ヲ爲セルモノモアリ)等ヲ爲シ群集ハ街頭一杯トナリ治安相當憂慮スヘキ状態ナリ又他ノ「グループ」ハ勿論哀良其ノ他重慶系人物ハ早クモ内々治安維持會ノ如キモノヲ結成シ當面ノ上海局面維持ニ當ルヘク動キヲ示シ居ルカ如シ不取敢大臣ヘ轉電セリ



1115

昭和20年8月12日

在上海土田公使より
東郷大東亜大臣宛(電報)

日本のポツダム宣言受諾に対する重慶側の態度及びこれに伴う諸施策決定について

上海 8月12日午後5時40分発
本省 8月12日午後6時05分着

(大至急)

支宛電報第一五八號

豫テ當方ニテ連絡ヲ取り居リタルジヨオンチ(清水書記官承知)ヨリノ内報ニ依レハ重慶ニ於テハ十一日國防最高會議及國民黨中央常務委員會連席會議ヲ開催シ所謂日本政府ノ和平提案ニ對スル重慶ノ態度之ニ伴フ原則的諸施策ノ討

議決定ヲナシタルカ其ノ大要左ノ通りナル由

(一)日本ノ天皇政治問題ニ付テハ曩ニ蔣介石カ「カイロ」會談ニ於テ米英側ニ表明セル通り日本國民ノ意思ニ依リ決定セラルヘク外國カ干涉スヘキモノニアラスト思料ス支那ハ其ノ領土主權ノ完全カ維持セラルル限り前記趣旨ニ基ク聯合國ノ決定ニ一任ストノ趣旨ヲ米國ニ通報セリ

(二)日本占領地區回復法大綱ヲ決定シ十一日蔣介石ヨリ軍事委員會委員長ノ名儀ヲ以テ右地區内ノ總ユル地下工作軍、遊撃軍、和平軍ノ現在ノ駐防地ヲ動カス委員長ノ指令ヲ俟テ行動スヘキ旨及委員長以外ノ如何ナル方面ノ指令ニモ服スヘカラサル旨通達セリ

(三)接收事務ニ付テハ重慶ヨリ大官ヲ派シ前線當該區長官ト合議シテ機宜ノ措置ヲ講セシム

右中央派遣人員トシテ内定(未タ正式發表ニ至ラス)セルハ(イ)中央黨部吳鐵城、潘公展(ロ)國民政府張羣、吳鼎昌(ハ)國防最高會議白崇禧、楊杰ノ六名(註吳鼎昌楊杰ハ北支方面ヘ)ニシテ其ノ他金融問題處理員トシテハ新華銀行王季莘浙江地方實業銀行徐桴ニ内定シアリ又米英聯合國トノ連絡ノ爲ニハ軍事委員會外事局員(姓名不詳)派遣セ

ラルル答ニシテ杜月笙ゴシヨージュ等ノ隨員説モアリ

(四)米國ニ於テハ前記(一)ノ重慶側意見及英「ソ」兩國ノ回答

(大體重慶側ト同シク日本側提案承認ナル由)竝ニ國內的

ニハ軍部ノ反對説財界側ノ承認説等ヲ斟酌シ外電ノ報ス

ルカ如キ折衷案トシテ日本側ニ表明シ來リタルモノナル

由但シ重慶側トシテハ和平實現迄ニハ猶相當困難ナル段

階ヲ經ヘキニ付輕々ニ和平慶祝等ハ行フヘカラストテ其

ノ趣旨モ全國的ニ通達濟ナル由

大臣へ轉電セリ



1116

昭和20年8月13日 在中国谷大使より
東郷外務大臣宛(電報)

南京国民政府解消など終戦後の諸措置に関する

陳公博との会談について

南京 8月13日午前0時00分発

本省 8月13日午前1時00分着

第三六號(緊急、館長符號)

貴電合第六五三號ニ關シ

十一日午後十二時周隆庠(李)外交部長數日前ヨリ病氣ノ爲

陳代理主席ヨリ周ヲ部長代理トシテ連絡ニ當ラシムル旨申

出タリ)ヲ招致シ御訓令ノ通り内報シ即刻陳代理主席ニ連

絡セシメ置キタルカ十二日午後三時本使陳代理主席ト會見

シ本使ヨリ昨夜内報ノ次第ヲ述ヘタル後本件申出ニ對シ敵

側ヨリ未タ回答無キ爲其ノ結末ハ全く未定ナルカ和平回復

セル場合ヲ假定シテ述フレハ其ノ際帝國ハ飽迄國府トノ同

甘共苦ノ關係ヲ重シ信義ニ基キ政府要人ヲ充分保護スル

ニ努メ例ヘハ渡日ノ希望アレハ其ノ便宜ヲ計ル等總ユル手

段ヲ講スル積リナリ之ニ關聯シ何等希望アラハ腹藏無ク申

出ラレ度シト告ケタルニ陳ハ好意ヲ謝シタル後部内各個人

ノ去就ニ付テハ未タ問訊シ居ラサル爲不明ナルカ自分ニ關

スル限り汪主席ヨリ後事ヲ託セラレタル關係モアリ急キ當

地ヲ離ルル氣持無シ出來得レハ日本側ノ援助ヲ得テ和平軍

ヲ一ヶ所ニ集結シ其ノ内部ニ居住シテ最後迄踏留マリ重慶

側トノ所要ノ交渉ニ任シ國府幹部ノ安全ヲ見届ケタル上去

就ヲ決スル積リナリ他ノ幹部ノ進退ハ自由ニ委セ度ク周佛

海モ一兩日中歸寧スヘキニ付篤ト幹部ト相談スヘキモ婦女

子ノ如キハ或ハ先ニ退京セシムル必要生スルヤモ計ラレス

次ニ國民政府ノ問題ナルカ和平協定調印ノ場合ハ自ら宣言

ヲ發シテ之ヲ解消シ其ノ後ハ委員會ヲ組織シテ地方ノ自治等ニ關スル必要ノ事務ヲ繼續シ重慶側ノ接收ヲ待ツコトトシテハ如何カト考ヘ居レリ和平軍隊ニ付テハ重慶側ニ於テモ武裝解除ヲ要求シ居ラサルニ付前述ノ通り之ヲ結集シテ自ラ指揮ニ當リ共產軍ノ寢返リ其ノ他叛亂等勃發ヲ防クコト治安ノ維持ヨリスルモ亦對重慶關係ヨリスルモ最モ機宜ノ措置ト考ヘ居ル次第ナルカ幸ヒ重慶側トノ對立觀念薄キニ付重慶側トノ交渉ハ進メ易カルヘシト考ヘ居レリト述ヘタリ依テ本使ヨリ和平回復後ノ場合國民政府ノ自發的解消聲明ハ還都以來ノ使命ニモ鑑ミ妙案ト思考セララルカ本件ハ一應帝國政府ノ意嚮ヲ照合スルコトト致度シ和平軍ノ處理問題ニ付テハ軍事顧問ト充分協議ノ上總軍司令官ト打合せスルコト然ルヘシト述ヘ置キタリ

1117

昭和20年8月14日

東郷大東亞大臣より
在滿州国山田大使、在中國谷大使、
在北京楠本公使他宛(電報)

滿州及び中国等における生産設備破壊禁止に
関する閣議決定について

別電 昭和二十年八月十四日發東郷大東亞大臣より

在滿州国山田大使、在中國谷大使、在北京楠
本公使他宛合第七一九号
右閣議決定

本省 8月14日發

合第七一九號(極秘、緊急)

本十四日別電合第七一九號通閣議決定ヲ見タルニ付テハ右
陸海側ト連絡ノ上措置アリ度

(別電)

本省 8月14日發

合第七一九號(極秘、緊急)

滿洲、支那等ノ地域ニ於ケル生産設備等ヲ我方ニ於テ破壊
スルコトアリトセハ惹イテ直接帝國ノ負擔ヲ増大スル結果
ヲ招來スルヲ以テ陸海軍及關係省ハ現地ニ對シ理由ヲ附シ
之カ破壊行爲嚴禁ニ關シ嚴命ヲ爲ス

1118

昭和20年8月14日

在中國谷大使より
東郷外務大臣宛(電報)

ポツダム宣言受諾に關シ支那派遣軍の意向を

考慮方意見具申

別電 昭和二十年八月十四日発在中国谷大使より東

郷外務大臣宛第三八号

ポツダム宣言受諾に関する岡村総軍司令官の
意見具申

南京 8月14日午後10時00分発
本省 8月15日午前0時00分着

第三七號(緊急、館長符號)

「ポツダム」宣言ヲ中心トスル時局收拾ニ關シ貴大臣ニ於
カレテハ竝々ナラヌ御苦心ノ存スル所ト拜察スル次第ナル
處外電ノ傳フルカ如キ聯合國回答ヲ以テシテハ果シテ能ク
國體ノ尊嚴ヲ護持シ國ノ内外ヲ納得セシメ得ルヤ否ヤ眞ニ
憂慮ニ堪エス(此ノ點先方ノ回答ニ對シ必要ノ修正ヲ加フ
ル等所要ノ措置ヲ御取計濟ト存スルモ)現ニ支那派遣軍總
司令官ニ於テハ要旨別電ノ如キ意見ヲ本十四日陸軍大臣及
參謀總長宛電報セル趣ニシテ右ハ眞ニ尤モノコトト存スル
處現下緊迫セル時局下廟議カ如何ニ御決定ヲ見ルヤハ本使
ノ承知シ得サル所ナルモ數百萬ノ陸海軍兵力カ猶決戰ヲ交
エスシテ國體ノ護持ニ邁進スヘク嚴存シ居ル今日特ニ百戰

百勝ノ光榮アル支那派遣軍ノ前記ノ如キ氣持ハ時局收拾ニ
當リ主要ナル要素トシテ特ニ御考慮ノ要アリト信ス

(別電)

南京 8月14日午後10時20分發
本省 8月15日午前1時05分着

第三八號(緊急、館長符號)

總司令官發陸軍大臣及參謀總長宛電報(要旨)

(一)天皇ノ統治大權ヲ認ムル場合ニモ武裝兵力ヲ解除セハ誰
カ之ヲ保障センヤ

(二)主權ヲ本土ニノミ限定スルハ大和民族三千萬ノ時代ニ還

元セシメントスルモノニシテ七千萬ノ生存ニハ臺灣、朝

鮮及南滿ヲ絕對必要トス

(三)數百萬ノ陸兵力決戰ヲ交エスシテ降伏スルカ如キ恥辱ハ

世界戰史ニ其ノ類ヲ見ス百萬ノ精銳健在ノ儘敗殘ノ支那

重慶軍ニ無條件降伏スルカ如キ絕對承服シ得ス

全國民鐵火一丸トナリテ必死敢闘スル處必スヤ死中活ヲ求

メ得ルモノト確信スルニ付右牢固タル決意ヲ以テ強力ニ政

府及輿論ヲ指導セラレタシ

昭和20年8月14日

在上海土田公使より
東郷大東亜大臣宛(電報)

時局急変説に伴う南京国民政府と重慶政権と

の關係に関する情報

上海 8月14日発

本省 8月14日着

第二二六四號(緊急)

時局急變説ニ伴フ各方面ノ動向一端左ノ通り(諜者報)

一、九日夜陳公博、周佛海等ハ蒋介石ニ對シ大官ヲ特派シ京滬地區ヲ接收アリ度旨及自ラ過失ヲ認メ國法ノ制裁ヲ待ツヘキ旨電報スル一方羅君強等ハ代表ヲ新四軍代表ノ許ニ派シ合策提携ヲ求メ居レルカ右ハ南京側要人カ國際情勢ノ急變ニ對處シ重慶延安兩方面ニ接近ヲ求メ極祕下ニ自己ノ安全ヲ確保セントスル魂膽ナルヘシ

二、陳立夫ハ蒋介石ノ代表トシテ十日周佛海ニ對シ差當リ京滬地區ノ治安維持ニ努メ中央ヨリノ大官ノ到着ヲ待チ之ヲ移行スヘシ其ノ安全問題ニ關シテハ一應形式上軍法裁判ニ附スヘキモ双十節ニ發布セラルヘキ大赦ニ依リ釋放或ハ減刑セラルヘキ旨電報越セリ

三、最近蒋介石ハ杜月笙、吳承祺ヲ正副主任委員トスル京滬接收委員會ヲ組織セルカ此ノ機構左ノ通

(一)文化教育組組長吳承祺、各文化機關及學校接收工作但シ新聞接收ハ趙君豪責任ヲ負フ

(二)社會金融組組長王曉籟、銀行金融機關接收工作、社會組中下層工作ハ杜月笙ノ門人ニテ之ニ當ラシム

(三)善後救濟ノ組長潘公展上海、南京臨時市長ハ潘及杜月笙ニテ夫々代理ス

尙杜月笙吳承祺一行ハ八月初旬前後シテ屯溪着待機ノ姿勢ニアリ

(四)上海方面軍ノ接收ニハ劉建緒(福建省政府主席)軍及王懋公(江蘇省政府主席)軍之ニ當ルヘシ



1120

昭和20年8月15日

終戦直後の蒋介石演説

終戦直後ノ蒋介石氏放送 (一九四五、八、一五)

全國軍民同胞、和平ヲ愛好スル世界ノ人士ヨ。我等ノ正義ハ必然強權ニ勝ツトイフ眞理ハ、ステニソノ最後ノ證明ヲ

得タガ、ソレハマタスナハチ、我等ノ國民革命ノ歴史的使命ノ成功ヲ表示シテキル。ワガ中國ハ暗黒、絶望ノ時期中ニ於テ八年奮闘シ、今日ニイタツテハジメテ實現スルコトガデキタ。我等ハワガ面前ニ顯現シテキル世界ノ和平ニ對シテ感謝シ、全國抗戰以來犠牲トナツタ忠勇ナ軍民先烈、正義、和平ノタメニ共同作戰シタ盟軍ニ感謝シコトニワガ國父ガ辛苦艱難シテ我等ノ革命ノ正確ナ途徑ヲ領導シ我等ヲシテ今日ノ勝利ノ一日アラシメタコトヲ感謝スル。シカシテ全世界ノ基督者ハサラニ一致シテ公正仁愛ナ上帝ニ感謝セネバナラス。全國同胞ガ抗戰以來八年間受ケタ痛苦、犠牲ハ、年一年ト増加ハシタガシカシ抗戰必勝ノ信念モマタ日一日ト増強サレタコトニワガ淪陷區同胞ハ無限ノ壓迫侮辱ヲ受ケタガ今日完全解放ヲ得、重ネテ天日ヲ見ルニイタツタノデアル。コノ數日來各地官民ノ歡呼、快慰ノ情緒モ、ソノ主要ナ意義ハコノ被占領區同胞ガ解放ヲ獲得シタトイフコトニアルノデアル。イマヤ我等ノ抗戰ハ勝利シタガ、シカシマダ最後ノ勝利トスルコトハデキナイ。抗戰勝利ノ中ニ含マレテキル意義ニツイテハ、全世界ノ人類モワガ同胞モ、コノ一次ノ戰爭ガ世界文明國家ノ参加シタ最

後ノ戰爭デナケレバナラスト希望シテキルデアラウ。モシモサウナラバワガ同胞ハ、形容ノデキナイホドノ困苦、侮辱ヲ受ケタニセヨ、犠牲ガ大キスキ勝利ガ遅スギルト恨ムコトハアルマイトオモフ。我等中國人民ハ最モ暗黒ノ絶望的ナ時代ニオイテ、ワガ民族ノ一貫セル忠勇、仁愛、偉大、堅忍ノ傳統的精神ヲ持シ、正義、人道ノタメニ奮闘スルコトニヨル犠牲ハ、カナラズヨクソノ報償ヲ得ルデアラウコトヲ深く知ツテキタノデアル。戰爭ニヨツテ聯合シタ世界ノ民族相互ノ間ニ發生シタ信念、コレガ今回ノ戰爭ガ我等ニアタヘタ最大ノ報償デアル。我等ノ聯合國ハ青年ノ血肉ヲモツテ建立シタモノデアリ、コノ反侵略ノ長城ニ参加シタ人ハ、臨時結合ノ盟友トイフダケデハナク、人類ノ尊嚴トイフ共同ノ信仰ノタメニタチアガツタ人デアル。シカシテソノコトハワガ聯合國共同ノ勝利デナケレバナナイ。今後我等ニトツテ最モ重要ナコトハ、何人ノイカナル挑撥離間ノ行爲ニモ破壊サレナイトイフコトデアル。地ハ東西ヲ分タズ、人ハ皮膚ノ色ニ論ナク、オヨソ人類ハ日一日ト加速度的ニ密接ニ聯合シ、一家ノ人ノヤウニ、手足ノヤウニナラネバナラス。今回ノ戰爭ハ我等人類ノ互助互敬ノ精

神ヲ發揚シ、相互信任ノ關係ヲ建立シ、且ツ世界戰爭ト世界和平トノ不可分ヲ證明シタガ、コノコトハサラニ今後戰爭發生ヲ不可能ナラシメルモノデアル。ココデ私ハ、「人ヲ待ツニオノレヲ待ツガゴトクス」及ビ「ナムヂノ敵人ヲ愛セヨ」トイフニツノ言葉ヲ想起シ、無限ノ感慨ヲ覺エルノデアル。同胞ヨ、舊惡ヲオモハズ、人ノタメニ善ヲナストイフコトハ、ワガ民族傳統ノ至尊至貴ノ徳性デアツテ、我等ハ一貫シテ、日本人民ヲ敵トシナイト聲明シテキタ。イマヤ敵軍ハ我等ト盟軍トノタメニ打倒サレタ。我等ハ當然嚴格ニ降服條件ヲ執行セネバナラナイガ、報仇ヲ企圖シテハナラナイ。コトニ敵國無辜ノ人民ヲ侮辱シテハナラナイ。我等ハタダ彼等ニ憐憫ヲ表示シ、彼等ヲシテソノ錯誤罪惡ヲ自省セシムベキデアル。モシモ暴行ヲモツテ敵人ノ從來ノ暴行ニ回答シ、侮辱ヲモツテ彼等ノ從來ノ誤マツタ優越感ニ回答スルナラバ、冤ハ冤ト相報ジ、永シヘニ終止スルトコロハナイデアラウ。軍民同胞ノ一人一人ガ今日特別ニ注意シナケレバナラナイトコロデアル。同胞ヨ、中國ヲ侵略シタ敵人ノ帝國主義ハ我等ニ打ち敗ラレタガ、我等ハマダ真正ノ勝利ノ目的ヲ達成シテキナイ。我等ハ侵略ノ

野心、武力ヲ徹底的ニ消滅サセナケレバナラナイノデアル。戦後ニハ艱難ナ工作ガアルデアラウ。我等ハ戦時ヨリモ更ニ巨大ナ力量ヲモツテ改進黨建設セネバナラナイ。或ヒハコノ時期ニオイテ、困難ナ問題ニ出會ハスカモ知レナイ。トイフノハ、敵人ヲシテ錯誤、過失ヲ承認セシメ、我等ノ主義ニ悦服セシメ、公平、正義ノ戰爭ガ彼等ノ武力掠奪及ビ強權ヨリモ、眞理ト人道トノ要求ニ合シテキルトイフコトヲ承認サセナケレバナラナイカラデアル。シカシテコノコトハワガ中國ト聯盟國トノ、和平後ニオケル最モ艱難ナル工作デアル。全世界永久ノ和平ハ、人類平等自由ノ民主精神、及ビ博愛互助ノ合作ノ基礎上ニ建立セラレルノデアリ、我等ハ民主合作ノ大道上ニ邁進シ、共同シテ全世界永久ノ和平ヲ擁護セネバナラナイト信ズル。我等ノ武裝ノ下ニ獲得セラレタ和平ハ、永久和平ノ完全ナ實現デハナイ。敵人ガ理性ノ戰場ニオイテ我等ノ征服スルトコロトナリ、徹底的ニ懺悔シテ我等ト同ジヤウニ和平ヲ愛好スルニイタツタトキ、全人類ノ求メル和平、即チ今次世界大戦ノ最後ノ目的ガ達成セラレルノデアル(中央社重慶一九四五、八、一七)

1121

昭和20年8月15日

在上海土田公使より
東郷大東亜大臣宛(電報)

上海善後措置に関する重慶側との接触について

上海 8月15日発
本省 8月15日着

(大至急)

支宛第一六二號

往電第一五五號ニ關シ

何世頼ハ蔣介石ヨリ當方面ニ於ケル日本側連絡責任者ニ任

命セララルル由ノ處十五日午前使者ヲ本使ノ許ニ派シ十四日

午後第三戰區顧祝同ヲ通シ蔣ヨリ(イ)陳公博、周佛海、任援

道ニ對スル正式接收迄日本側ト協力シ治安ノ維持ニ當ルヘ

キ旨ノ命令傳達方(ロ)岡村總司令官ニ對スル蔣介石挨拶轉達

方ノ命令ニ接シ十四日中ニ周佛海ニ右命令ヲ傳ヘルト共ニ

十五日午後飛機ニテ川本陸軍部長周佛海ト共ニ南京ニ赴キ

陳公博ニ命令ノ傳達ヲ爲シ岡村總司令官ヲ訪往スルコトト

ナリタル旨通報セシムル所アリ(飛機ハ日本軍側ニテ準備

スルコトトナリ居リ若シ不可能ノ際ハ夜行トスル由)且本

使ニ對シ今日迄ノ努力ニモ不拘斯カル結果ヲ見タルコトニ

付衷心ヨリ心中ヲ察スル旨ノ挨拶ヲ爲シ本使ヨリ此ノ際中
國側ニ對シ何等希望乃至注意事項アラハ承ハリ度旨申出ア
リタリ依而本使ヨリ其ノ配慮ヲ謝シ日本側トシテハ唯上御

一人ニ歸一シ奉リ聖旨ヲ奉シテ努力スルノミナルニ付中國

側ニ於テ我方ノ誠意ヲ信賴シ飽ク迄相互ニ紳士的ニ措置ヲ

取運ヒ度在留邦人ハ東亞再興ニ役立つ限リ殘留セシメ今後

ノ復興建設ニ協力セシメ度キ所存ニ付今後共密接ニ連絡ヲ

願フ旨及南京ニ於テ御都合ニ依リ谷大使トモ御話セラレテ

ハ如何ト述ヘ置ケリ

大臣へ轉電セリ

大臣へ轉電セリ

1122

昭和20年8月21日

在中國谷大使より
重光大東亜大臣宛(電報)

政経指導最高會議幹事會決定「和平直後ノ對

支處理要綱」について

南京 8月21日後7時00分発
本省 8月21日後11時00分着

各大使館事務所長宛第一六六號

十九日ノ政経指導最高會議幹事會ニ總軍側ヨリ提案アリ別

(見当ス)

電合第一六七號「和平直後ノ對支處理要綱」ニ關シ意見ノ一致ヲ見總軍ヨリ隸下ニ指示セラレタリ右要綱中七、八及九ノ各項ハ差當リテノ努力目標ヲ示シタルモノニシテ具現方ニ努力スヘキモ今後ノ情勢如何ニ依リテハ之カ實現必スシモ容易ナラスト思考スルモ委細別電ニ付諒承ノ上貴方ニ於ケル施策ノ指針トセラレ度
大臣ヨリ外務大臣ヘ轉報アリ度
北京ヨリ張家口ヘ轉報アリ度

1123

昭和20年8月22日 在中国谷大使より
重光外務大臣宛(電報)

南京国民政府解消後の諸措置に関する陳公博
との会談について

南京 8月22日後4時00分発
本省 8月29日後8時15分着

K第五四七號(極秘)

陳公博ハ國民政府解消後挨拶ノ爲十八日本使ヲ來訪スル旨約セルカ偶々同日早朝京滬行動總隊事件發生ノ爲之カ彈壓ニ忙殺サレテ約ヲ果シ得ヌ漸ク二十日ニ至リ嚴重ナル警戒

ノ下ニ本使ヲ來訪時餘ニ亘リ會談ヲ遂ケタリ先ツ陳ヨリ國民政府解消後重慶當局ニ政務ヲ引繼ク迄ハ相當餘裕アルモノト思料シ重慶臨時政務委員會ヲ組織セル次第ナルカ最近ノ狀況ニテハ豫想以上ニ早ク後一、二週間位ニシテ重慶側ヨリ人ヲ派遣シ來ルヤモ計ラレサル模様ナルニ付本日午前政務委員會及治安委員會ノ連席會議ヲ開キ政務委員會ノ早急結末方協議セリ(月末解消スルコトニ議決セルカ右ハ重慶ニ對スル「ヂエスチユア」ノ意ヲモ含ミ若シ夫レ迄接收ノ運ヒニ至ラサルトキハ引續キ政務ヲ見ルヘキニ付誤解ナキ様後刻連絡アリ)尤モ治安委員會カ引繼ヲ終ル迄治安維持ノ責任ヲ負フコトハ素ヨリナリ茲ニ、三日來種々ノ問題起リ任援道ハ命ヲ受ケタリト稱シ南京先遣軍司令官ナル名義ニテ南京ニ乘込ミ來リ何等カ行動ニ出テントスル模様ナリシニ付昨晩會見シ事情ヲ尋ネタルニ願祝同ヲ通シ重慶側ヨリ任命アリタリト稱シ當方ニテハ之ヲ確ムルニ由ナク結局暫ク行動開始ヲ延期スル様勸メ同人モ之ヲ承諾シ事ナキヲ得タリ行動總隊事件ハ一先ツ落着セルカ首謀者シュコー[○]ハ戴笠ノ命令ヲ受ケス先走リテ行動セルモノノ如ク戴ヨリ叱責セラレタリトノコトナリ尙任援道ノ言ニ依レハ周佛海

ハ重慶側ヨリ京滬行動總隊司令ニ任セラレタリトノコトナ
ルモ之モ亦眞僞ノ程明カナラス何レニスルモ今後ハ一日
ノ如ク治安悪化スルコトナカルヘシト述ヘタルニ付本使ヨ
リ目下關係國代表者間ニ停戰協定ノ打合ヲ行ヒ居リ右協定
成立後ニアラサレハ中國側ハ正式ニ日本側ト折衝シ得サル
立場ニアリ若シ此ノ際重慶代表等ト稱シテ來ルモノアラハ
或ハ僞者カ又ハ全ク非公式ノモノナルヘク日本側ヨリスレ
ハ正式ノ相手ト認メ難シ政務委員會モ過渡期間中ノ責任上
斯カル輩ノ言ヲ聞ク必要ナカルヘシ寧ロ政務委員會ト一體
トナリ重慶側ニ正式引繼ヲナス迄和平地區内ニ斯ル越軌ノ
行動ノ起ルヲ防クコト重慶側ノ喜フ所ナルヘシ何トナレハ
重慶カ今日最モ心配シ居ルハ中共ノ策動ニシテ委員會カ重
慶側ト眞ノ連絡ヲ遂クルニ至ル迄和平地區内ヲ充分護リ居
ルコトハ重慶側ノ最モ欲スル所ナルヘケレハナリ恐ラク重
慶側ハ此ノ點ヲ心配シ視察又ハ試験ノ爲種々ノ人間ヲ利用
シ居ルモノト察セラルルカ政務委員會カ毅然タル態度ヲ持
シ居ルコト重慶側ヨリシテ安心セシムル所以ナリ日本ハ一度
和平ヲ決心セル以上飽迄重慶ヲ中心トスル中國ノ統一ヲ念
願シ統一ノ障害ヲ除去スルニ努ムル覺悟ヲ以テ軍側ノ布告

竝ニ本使ノ居留民指導等總テ之ヲ目標トナシ居ル次第ナリ
貴下モ重慶ノ困難ナル立場ヲ認識シ極力重慶ヲ援助スルコ
ト然ルヘシ茲暫クハ大切ナル時期ナルニ付一致協力シテ治
安ヲ維持シ立派ニ引繼出來得ル様努力セラレ度ト述ヘタル
處陳ハ全然同感ナルカ只困難ヲ感スル點ハ(一)重慶カ如何ナ
ル順序ニテ接收スル積リナルヤ明カナラサルコト(二)重慶側
ハ我々ノ力(政務委員會)ノミニテハ中共ノ侵入ヲ抑フルコ
ト覺束ナシト考ヘ別ノ人ヲ任命シテ治安維持ニ當ラシメン
トシ却テ局面ヲ混亂ニ陥レツツアルコト(三)此ノ機會ニ手柄
ヲ立テテ重慶ノ好感ヲ得ントスル卑シキ人物横行スルコト
等ナルカ特ニ第一點ノ接收手續明白トナラサレハ政務委員
會ノ行動豫定付カス昨日此ノ點ヲ某重慶側國民黨員ヲ通シ
テ重慶側ニ問合セタルカ此ノ連絡モ覺束ナキ次第ナリト述
ヘタリ依テ本使ヨリ今後重慶ト正式交渉ノ表面ニ立ツハ派
遣軍司令官ナルヲ以テ密接ニ連絡シ協力スルコト肝要ナル
カ重慶側トノ連絡モ軍側ニ依頼セハ種々便宜アルヘシ何レ
其ノ中重慶側ヨリ日本軍ニ對シ正式ノ表示アルヘキニ付之
ト呼應シ諸般ノ準備ヲ進メラレテ然ルヘク本使ヨリモ此ノ
際總軍側ト充分打合置クヘシト告ケ置キタリ最後ニ陳ハ一

身上ノコトヲ述へ度シト前提シ蒋介石ハ公人トシテノ關係上自分ヲ信用シ居ルモノト信スルカ私人的ニハ深キ關係ナキヲ以テ自分ヲ用フル氣持ハナカルヘシ從來對重慶工作ニ付テモ自分ハ未タ曾テ蒋介石ト祕カニ連絡セルコトナク總テ日本側ノ希望ニ基キ周作民等ヲ通シ日本ノ眞意ヲ傳へ考慮ヲ促カスニ止マリ今日ニ於テモ自分ノ態度ハ變ラズ即チ別段手柄ヲ立テテ蔣ノ氣ニ入ル様立廻ル積リナク又民衆ヲ犠牲ニシテ自分一人蔣ノ歡心ヲ買ハントスル考ヘモナシ只偏ニ治安ヲ維持シ中共ノ侵入ヲ防キ國家ノ分裂ヲ避ケ中國ヲ復興シテ他日中日友好關係樹立ノ基礎ヲ築カンコトヲ期待スルノミ此ノ心情ハ去ル十七日周作民ニ託シ蒋介石ニモ通シ置ケルカ重慶復歸後自分ヲ裁判ニ付スルカ如キコトアレハ夫レ迄ノコト然ラサル場合ニ於テモ之以上政治ニ携ハルコトハ御免ナリト沈痛ナル面持ニテ語レルニ付本使ヨリ岡村司令官ト打合ノ上重處側ノ意嚮ヲ質シ其ノ上ニテ善處スルコト然ルヘシ一身上ノコトニ付テハ日本側ハ飽迄信義ヲ守リ如何様ニテモ援助スヘシト述へ置キタリ

陳公博トノ會談ハ大要以上ナルカ行動隊首謀者シユーコーハ曾テ周佛海ノ部下ニシテ周ノ義弟揚煌華ヨリ資金ノ供給

ヲ受ケ居リ周佛海モ今回ノ行動ニ關係アリトノ噂アリ又任援道ハ先遣軍司令ノ任命ヲ受ケタリトテ南京ニ乘込ム等々々ニ同僚ニ裏切ラレ且汪主席逝去後切りニ「國家ハ統一スヘシ東亞分裂スヘカラス」ノ標語ヲ以テ重慶トノ合流ニ備フルニ苦心シ來レルニ拘ハラス重慶側ニテ出鱈目二人ヲ使喚シテ種々ノ攪亂ヲ試ミ折角ノ苦心ヲ最後ノ土壇場ニ於テ無ニスルカ如キ仕打ニ出テツツアルニ對シ遣瀨ナキ氣持トナリ居ルコト明カナリ行動隊事件以來陳ト周トノ關係ハ面白カラサルニ至リシカ總軍側內面的斡旋ニ依リ一應仲直リシ周ハ十九日上海ニ立去リタルカ今回ノ行動隊事件ハ從來周佛海カ戴笠系統ノ藍衣社ヲ通シ行ヒツツアリシ重慶和平「ルート」ノ關係者達カ情勢ノ變化ニ依リ俄カニ和平地區「ブローカー」ト早變リシ中共ノ進出ヲ防止セント焦慮スル一方周佛海ノ爲ヲモ圖リ過早ノ行動ニ出テタルモノト判斷セラル尙之等ノ連中カ果シテ蒋介石ノ眞ノ命令ニ依リ動キツツアルモノナリヤ否ヤ全面和平「ブローカー」ノ場合ト同様極メテ疑ハシキ節アリ左ラデダニ上海南京地區ハ玉石混淆吳越同舟ニテ事態複雑ヲ極メ、三日來陳公博ノ焦慮苦心容易ナラサルモノノ如ク觀取セラル

在支各大使館事務所長へ轉電セリ
北京ヨリ張大へ轉報アリタシ

1124

昭和20年8月22日
在中国谷大使より
重光大東亜大臣宛(電報)

南京臨時政務委員会において同会解消決定に
ついて

南京 8月22日後5時00分發
本省 8月29日後8時40分着

第五四九號

八月二十日ノ南京臨時政務委員会第一會議ニ於テ左ノ三原
則ヲ議決セリ

(一)南京臨時政務委員会ハ解消準備ニ着手シ九月一日以前ニ
解消ス

(二)治安委員會ハ治安維持セラルルニ至ラハ隨時之ヲ解消ス
(三)國庫收入ハ從來通り之ヲ國庫ニ納入ス尙右ニ關シ周隆庠

ヨリノ連絡ニ依レハ前記(一)ハ重慶ニ對スル「ゼスチュア」
ニシテ九月一日以前ニ政務移管不能ナル場合ハ引續キ同
委員會ヲ存續セシムルコトトナルヘキ趣ナリ

在支各大使館事務所長へ轉電セリ

1125

昭和20年8月23日
在中国谷大使より
重光外務大臣宛(電報)

在留邦人の危険が予知される現状をふまえ今後
の引揚措置につき管下公館長へ指示について

南京 8月23日發
本省 8月31日着

在支各公館長宛

合第一七二號(緊急)

一、在支總軍撤收後ノ在留邦人ノ在リ方ニ關シテハ曩ニ大臣
來電第七一六號御來示ノ通り出來得ル限り之ヲ支那ニ定
着セシムルト共ニ往電合第一六六號「和平直後ノ對支處
理要綱」ノ趣旨ニ依リ日華兩國民ノ提携ニ依ル新中國ノ
復興建設ニ協力セシメンコトハ最モ我方ノ希望スル所ナ
ルカ右我方希望ヲ達成セシムル爲ニハ重慶側ト我軍トノ
間ニ圓滿ニ接收ノ完了セラルル迄皇軍力武裝ヲ保持シ居
留民保護ノ實力ヲ有シ得ルコト及重慶側力殘留邦人保護
ノ實ヲ擧ケ得ルコトヲ必要條件トスルハ言フ迄モ無キ儀

ナリ

二、然ルニ茲兩三日來ノ傾向ヲ見ルニ「マニラ」ニ於ケル停戦協定文ニハ時期ヲ限り皇軍ノ武器引渡ヲ規定シ皇軍ヲシテ前記ノ如キ重慶側トノ交渉ヲ行フ餘地ヲ存セシメサル惧鮮カラス之等ニ備ヘ軍側ニ於テハ北京、天津、青島、連雲港、上海、廣東及海南島ヲ最終集結地トシ不取敢右各地ノ外中間集結地タル濟南、徐州、南京等ニ奥地軍隊ヲ集結セントスル意嚮ヲ有シアリ各地在留邦人ハ多ク重慶及英米敵産ニ居住シ之等敵産ノ工場事業場及店舗等ヲ占有シ生計ヲ營ミ居ル現狀ト各地ニ於ケル共產軍匪軍(北支ニ於テハ右ノ外蘇軍ノ侵寇)ノ活動及共產軍ト重慶軍トノ衝突ノ外支那民衆ノ根強キ怨恨等ハ番ニ邦人ノ現地定着ヲ概ネ不可能ナラシムルノミナラス接收ノ爲各地ニ進出スヘキ重慶軍ノ實力乃至組織ノ貧弱等ニ鑑ミ各地邦人ノ直面スヘキ一大危険ヲ豫見セサルヲ得サル現狀ニ在リ

尤モ前記停戦協定ノ内容カ皇軍ト重慶側トノ直接交渉ヲ許ス場合ニ於テハ前記ノ危険ハ一時之ヲ免レ得ルコト勿論(此ノ間電文不明)解決方大至急極秘裡ニ準備シ置キ本

使ヨリ何分ノ指示ヲ爲ス場合我方ノ確保スル交通路線ニテ大至急引揚ケシムル様致度(半島人及本島人モ出來得ル限り内地人ニ準シ取扱フコト)

尙該當者數大至急當方ニ電報アリ度又各大使館事務所長ハ管下總數大臣ニ電報セラレ度

(イ)老幼婦女子(當方ノ指示ニ從ヒ直ニ集結ヲ開始ス此ノ場合手荷物ハ鍋釜身ノ廻品等成ルヘク少クシ米及保存可能食糧ヲ多量ニ携行セシム)

(ロ)及(ハ)ニ該當スル以外ノ男子ハ(イ)ニ續キ引揚ケル處分不能ノ財産

一括支那側ニ保管ヲ託スル等適宜處置ス

(ニ)公共事務従業員ハ出來得ル限り軍ノ撤收完了迄殘留シ之ト行動ヲ共ニス(従業員ノ婦女子ハ(イ)ニ包含シ引揚ケシム)

(ホ)特ニ殘留ノ自信有ル者ハ軍ノ撤收後モ殘留ス

(ヘ)事態惡化セサル場合ハ携帶荷物殘留財産ノ處分等追而

電報ス

北京ヨリ御見込ニ依リ張大及其ノ管下ニ轉電アリ度

大臣ニ轉電セリ

1126

昭和20年8月23日 在中国谷大使より
重光大東亜大臣宛(電報)

中国共産党軍の南京先占を阻止し重慶側の意
を迎えようとする南京側要人の動向について

南京 8月23日後9時00分發
本省 9月3日前6時00分着

第五四八號

往電K第二七九號ニ關シ

一、周鎬一派ノ事件ノ外江蘇省長任援道ハ蒋介石ヨリ南京先遣軍司令官トシテ京蘇一帯ノ治安維持ヲ委サレタリト稱シ十八日南京ニ入城シ重慶側第七軍副軍長兼第一七一師師長李本一亦津浦線南部及京畿一帯ノ治安ノ責任ヲ負フコトトナレリトテ部隊ヲ浦口ニ入レ自身入城シ來レル外重慶軍事委員宣導委員何民魂ナル者モ市内ニ辦事處ヲ設置スル等ノコトアリタルカ中國側當局ニ於テ之カ鎮撫ニ努ムルト共ニ防衛司令部ニ於テモ二十日朝刊ニ「軍ハ南京ノ治安維持移讓ニ關シ中華民國政府トノ間ニ正式取極並手續ヲ終了スル迄ノ間民衆ノ福祉増進ノ爲ニ依然之カ責任ノ衝ニ當ル」可キ旨並ニ國體的運動、出版並ニ頒布

揚言其ノ他一切ノ言動、國際記念日以外ノ國旗掲揚ヲ禁止右ニ違反スル者ハ軍律ニ依リ嚴罰ニ處スヘキ旨發表シ前記諸機關ハ何レモ活動ヲ停止セリ

二、周鎬ハ今回ノ行動總隊蹶起ノ目標ハ新四軍ニ依ル南京先占ヲ防クコトヲ第一トシ日本側ニ反抗スルカ如キコトハ毛頭考ヘ居ラス尙重慶側ヨリハ全面和平後周佛海ヲ京抗間政治最高責任者ニ丁默邨ヲ其ノ輔佐役ニ張恒ヲ杭州ノ責任者ニ任援道ヲ京蘇ノ責任者トスヘキ旨内命アリ又梅思平ハ第三戰區顧祝同ト或種ノ關係アルヲ以テ重慶ノ還都後重責ニ就クヲ得ヘシト洩ラシ居リ李本一モ亦「日本軍ニ反抗ノ意思無ク唯新四軍ニ南京ヲ占領セララルコトヲ恐ルルノミ」ト述ヘ居ル趣ニテ何レモ中共軍ノ進入ヲ防止シ重慶ノ意ヲ迎ヘントスル點ニ於テハ一致シ居レリ尙行動隊ヨリ狙撃セラレタル蕭叔萱ハ十九日朝死亡セリ
各大使館事務所長、九江、漢口ヘ轉電セリ

1127

昭和20年8月24日 在中国谷大使より
重光大東亜大臣宛(電報)

終戦後の中国諸情勢に関する梅思平の内話

K第二八〇號

南京 8月24日後2時00分發
本省 9月3日後3時45分着

當面ノ時局ニ關シ梅思平ハ二十三日當館館員ニ對シ左ノ通
リ語レリ

一、臨時政務委員會ハ八月末ヲ以テ終結スルコトニ決定セル
カ實際上幹部大多數ハ陳群、蕭叔萱ノ死亡ニ依リ衝擊ヲ
受ケ或ハ逃避シ或ハ消極的トナリ政務ハ既ニ停止ノ狀態
ニ在リ唯治安ノ維持ニ付テハ重慶側ニ於テモ考慮セルモ
ノト見ヘ和平軍ニ對シ現態勢ノ儘治安ヲ維持シ他日ノ整
編ヲ待ツヘシトノ表示アリタル爲暫クハ動搖ナカルヘク
警察ハ重慶政府ニ引繼ヲ終ル迄一日モ斷絶セサル様李。謳。
一（警察總監）ト打合セ自分モ内政處長トシテ李ト共ニ最
後迄踏止マリ其ノ責任ヲ果ス積リナリ

二、當方面ニ於テ最モ憂慮スヘキ問題ハ新四軍ノ策動ニシテ
最近ハ漂水、漂陽、宣城一帶ヲ占領シ南京蕪湖ヲ包圍ノ
態勢ニアリ六合附近モ殆ント是等ノ手ニ歸シ蘇北ニ於テ
ハ和平軍占領後ハ日本軍ト共ニ楊州ニ集結シ彼等ノ進入
ヲ阻止シツツアリ上海南京間ノ交通ハ果シテ彼等ニ脅カ

サルルコトナキヤ之カ又心配ノ種ニテ重慶カ南京ニ還都
スルニハ少クモ一〇萬位ノ兵力ヲ當方面ニ派遣スルニア
ラサレハ其ノ安全ハ期シ難ク而モ途中新四軍ト戦ヒツツ
這入り込ム必要アリ之ノ情勢ハ南京側ニ於テモ承知シ居
ルモノト察セラルルカ此ノ點ニ鑑ミルモ何應欽力速ニ來
寧シ岡村司令官ト十分打合ヲ遂ケ引繼ニ當リ協力シテ此
ノ危局ヲ切抜クル様最善ノ努力ヲ拂フ要アリ何應欽ノ副
參謀長冷欣ハ先發ト共ニ本日來寧スル豫定ナル由ニ付當
方面ノ實情ヲ十分諒解セシムルト共ニ何應欽ノ來寧ヲ促
進スルコト肝要ナリ

三、過日當地ニ行動隊ナルモノ出現シ幸ヒ日本軍ノ彈壓ニ依
リ一應影ヲ潛メタルカ上海方面ニテハ重慶ノ命ヲ受ケタ
リト稱スル者種々ノ看板ヲ掲ケ勝手ニ行動シツツアリ右
ハ元來地下工作ノ爲重慶側ヨリ任務ヲ與ヘ居リタル連中
カ俄ニ表面ニ出テ來タレル爲ニシテ周佛海モ困リ居ル由
ナルカ右ノ如キハ素ヨリ重慶ノ眞意ニアラサルヘク夫ニ
ツケテモ早く正式ノ責任者來タリ組織アル行動ヲ採ルニ
至ランコトヲ希望シテ止マス上海ニ於テハ是等ノ連中カ
頻リニ要人連ヲ脅カシテ家屋ヲ接收スル等相當兇行ヲ行

ヒツツアル模様ナリ

四、重慶側カ國民政府ノ同志ヲ如何ニ取扱フカ何人モ心配シ居ル次第ナルカ地方ノ實權又ハ實力ヲ握リ居ル者即チ周佛海、任援道、丁黙邨、孫良誠ノ如キハ既ニ夫々軍事關係ノ名義ヲ與ヘ居ルヲ以テ是等ノ者ヲ利用スル方針ト察セララルカ其ノ他我々如キ單純ナル政務官ニ對シテハ何等ノ表示ヲモ爲シ居ラス或ハ我々ヲ裁判ニ附スルカ如キコトアルヤモ測リ難キモ良心ニ疚シキコトナキ

1128

昭和20年8月24日

在中国谷大使より
重光外務大臣宛(電報)

中国共産党軍の進出などの中国情勢に関する
南京臨時政務委員会秘書長の内話について

南京 8月24日後2時00分発
本省 9月2日後3時00分着

K第二八一號(至急)

當面ノ諸問題ニ關シ臨時政府委員會祕書長岑德廣ハ二十三
日當館館員ニ對シ左ノ通り語レル趣ナリ
一、中國ハ戰爭終結ト共ニ極メテ困難ナル立場トナレリ即チ

蘇聯ハ早くモ露骨ニ其ノ毒牙ヲ現ハシ中共ハ政權ノ奪取ヲ目標トシテ總ユル手段ヲ講シツツアリ中國人カ勝利ヲ得タリ等ト浮薄ナル考ニテ騒キ廻ル間ニ中國ハ共産黨ノ天下トナル危險アリ吾々ハ特ニ此ノ點ヲ憂ヒ和平地區ヲ重慶側ニ引繼ク迄極力治安ヲ維持シ中共側ノ乘スル機會ヲ與ヘサラシコトヲ期セリ然ルニ周佛海、任援道ノ如キ眞面目ニ事態ヲ考慮セス先走リテ自ら吾々ノ建前ヲ崩スカ如キ行動ニ出テタルハ甚タ遺憾ナリ所謂重慶側ト連絡アリト稱スル連中ハ私心ヲ挾ミテ手柄ヲ立ツルニ汲々トシ眞ニ國家民族ヲ顧ミルナシ今日上海其ノ他ニテ騒立テ居ル連中ハ總テ此ノ類ナルカ之ニ反シ中共側ハ黙々トシテ其ノ工作ニ没頭シ着々活動ノ準備ヲ整ヘ上海南京其ノ他京滬沿線ノ都市ニハ無數ノ工作員潛入シ最近ハ新四軍ノ證明書ヲ携ヘタルモノ公然汽車ニテ往來シツツアリ任援道ノ如キハ此ノ方面ノ取締ヲ忽セシシテ先遣軍司令部ヲ重慶ニ設クルコトノミヲ焦リ居ル状態ニテ中國ノ將來眞ニ憂ウヘキモノアリ今ノ状態ニテハ黃河以北ハ延安ノモノトナリ中國ノ内亂ハ化シテ米蘇ノ衝突トナルヤモ圖リ難シ

三、以上ノ如ク當地方ノ實狀ト陳公博以下臨時政務委員會ノ苦心ト中國目前ノ危機ニ關スル吾々ノ觀察トハ是非蒋介石ニ知ラセ度ク從來蒋介石トノ連絡ハ周佛海其他幾人モノ手ヲ通シテ行ヒ居リシ關係上果シテ眞相カ傳ハリ居ルヤ否ヤ覺束無キニ付目下陳公博トモ相談シ直接蒋介石ニ通スル連絡ヲ探究中ナリ日本軍ト重慶軍ト交代ノ場合一步ヲ誤マレハ國內ハ混亂ノ巷ト化シ秩序ハ破壊セラレ中共及蘇聯ノ天下トナルヘシ自分ハ日本ト四ヶ國側トノ休戰條約等ニ日ヲ暮シツツアル間ニ東洋ヲ舞臺トスル米蘇戰爭カ始マルニアラスヤトサヘ豫想シ居ル次第ナリ

在支各大使館事務所長へ轉電セリ

1129

昭和20年8月24日 在中国谷大使より
重光大東亜大臣宛(電報)

陳公博渡日に同意について

南京 8月24日午後2時00分発
本省 8月26日午後4時00分着

第四二號(館長符號、緊急)

前國民政府代理主席陳公博其ノ他要人ノ保護ニ付テハ豫テ

ヨリ本使岡村司令官トノ間ニ打合セ陳公博ニモ遠慮ナク希望ヲ申出ツル様告ケ置キタル處二十三日朝陳ハ周隆庠ヲ本使ノ下ニ派シ二十二日蒋介石ヨリ密ニ人ヲ通シテ國民政府代理主席ノ地位ニアリタル陳カ此ノ儘南京ニ留マルコトハ面白カラサルニ付他ニ移ルコト可然旨勸告アリ之以上當地ニ頑張ルコトハ却テ蒋介石ヲ始メ一般ニ疑惑ヲカケルコトナルヘキニ付適當ノ時期ニ當地ヲ離レタキ積リナルカ種々考慮ノ結果從來ヨリノ御言葉ニ甘エ日本ニ赴クコトニ決心セリ就テハ右ニ關シ御援助ヲ得度出發ノ時期ニ付テモ日本側ノ都合ニ依リ決定セラレ度尙同行者ハ未定ナルカ或ハ希望者數名アルヤモ圖リ難シト申出テタリ

重慶軍モ二十六日ヨリ空挺隊ニ依リ當地ニ進駐開始ノ情勢ニ鑑ミ陳公博ヲ之以上當地ニ引留ムルコトハ面白カラスト認メラルルニ付右本人ノ希望ニ應シ目下總軍側ト聯絡シ飛行機ノ便ヲ以テ今明日中ニ渡日セシムルコトニ手配方努力中ナルニ付テハ居住地點等大至急準備ノ上緊急電ニテ回電アリ度

尙周佛海ノコトニ付テハ屢次往電ノ次第モアリ此ノ際我方ヨリ進ンテ取上クル必要ナキヤニ存セラル

1130

昭和20年8月25日 重光外務大臣より
在中国谷大使宛(電報)

中国での在留邦人保護に関する連合国軍側との交渉振りについて

別電一 昭和二十年八月二十五日発重光外務大臣より

在中国谷大使宛第八三号

連合国側に伝えた作戦行動停止後の中国情勢について

二 昭和二十年八月二十五日発重光外務大臣より

在中国谷大使宛第八四号

連合国側に伝えた満州、蒙疆、朝鮮半島北部情勢について

本省 8月25日後5時50分発

第八二號(大至急)

大東亞大臣宛貴電第五五三號ニ關シ

一、「マニラ」ニテ我方代表カ受領セル聯合國最高司令官ノ指示中支那(滿洲ヲ除ク)臺灣及北緯十六度以北ノ佛領印度支那内ノ日本先任司令官並ニ總テノ地上、水上、航空及補助部隊ハ蔣介石ニ降伏スヘク且前記地域ニ於テハ蔣

介石ハ降伏ヲ受諾スル權限ヲ賦與セラレタル唯一ノ聯合國代表者ニシテ日本軍隊ノ降伏ハ彼又ハ其ノ代表者ニ對シテノミナサルヘシトアルニ鑑ミ在外邦人保護ニ關シテハ何等ノ指示ハ非サルモ在支邦人保護ニ關シ蔣介石又ハ其代表者ト折衝ヲ行フハ差支ヘナキモノト認ム

二、中央ニ於テモ在外邦人ノ生命財産保護ノ問題ニ付テハ深甚ナル關心ヲ有スル次第ニシテ之ニ關聯シ既ニ聯合國最高司令官宛八月廿日及廿三日ノ二回ニ亘リ別電第八三號及別電第八四號ノ如ク希望ヲ表明シ居ル次第ナルカ事態ノ推移ニ依ツテハ必要ニ應シ重ネテ同司令官ニ對シ電報ニテ希望ヲ表スルモ差支ヘナキ次第ナリ(貴方ニ於テ希望セラルルニ於テハ現地ノ具體的實情回電アリ度)

(別電一)

本省 8月25日後5時50分發

第八三號(大至急)

一、作戰行動停止後ノ支那情勢左ノ如シ

(1)重慶側及延安側軍官憲及其ノ指揮下軍隊ハ相競ツテ無統制ニ帝國勢力圈内ニ進駐シ或ハ各個ニ武装解除ヲ要

求シ居レリ

(2)此ノ間ニ處シ帝國軍ハ辛ウシテ混亂ヲ防止シ一般民衆
及居留民ノ保護ニ任シアリ

二、既ニ戰鬪ヲ全ク停止セル帝國軍ハ共同宣言ノ要求ヲ速ニ
實現スルノ意志アルモ秩序ノ維持及一般民衆ノ保護等ニ
付適宜措置スルノ要アリト認メアリ
支那ノ實狀ニ就テハ貴方ニ於テモ調査ノ爲所要ノ人員ヲ
派遣シ調査セラレ度

(別電二)

本省 8月25日後5時55分發

第八四號(大至急)

滿洲蒙疆北鮮ニ於テハ各方面逐次武裝解除ヲ實施シツツア
ルモ一部ニ於テ日本軍及邦人ニ對スル無法ナル發砲掠奪暴
行強姦等目ニ余ル行爲發シ逐次治安維持カ不可能トナリ拾
收不可能ナル事態惹起ノ徵歴然タリ斯クノ如ク日本軍力誠
意ヲ以テ忠實ニ貴軍司令官ノ要請ニ應セントスルモ事態ノ
推移ハ樂觀ヲ許ササルモノアルニ付之等治安不良地區ニ於
テハ邦人ヲ安全ナル地區ニ退避セシムル迄所要ノ武器ヲ保

持スル事ヲ許容セラレ度キコトヲ望ム

西貢ニ轉電セリ

西貢ヨリ總軍ニ轉報アリタシ

~~~~~

1131 昭和20年8月25日 在中國谷大使より  
重光大東亞大臣宛(電報)

陳公博ら日本に向け出發について

南京 8月25日後4時00分發  
本省 8月26日後5時00分着

K第二八五號(緊急、館長符號扱)

青島往電第一三號ニ關シ

(英國庫カ)

陳公博ハ夫人及女祕書(バクコクコウ)竝ニ林柏生、陳君慧、  
何炳賢、周隆庠ヲ同伴(空德廣ハ不參)軍事顧問部小川中尉  
ニ附添ハシ二十五日午前七時四十五分飛行機ニテ當地發米  
子ニ向ヒタリ

途中ノ狀況ニ依リテハ福岡ニ着陸スルヤモ圖ラレス就テハ  
一行ノ居住等ニ關シ大至急御手配アリ度

本邦滞在中ノ生活費トシテノ儲備券一億元ヲ當館ニ託セラ  
レタルニ付所要ノ經費ハ不取敢本省ヨリ支出方御取計相成

度

右一行ノ家族其ノ他楮民誼氏家族等ハ同日朝當地發列車ニ  
テ我方護衛ノ下ニ上海ニ避難セリ

上海、北京、廣東、青島へ轉電セリ



1132

昭和20年8月25日 在中国谷大使より  
重光外務大臣宛(電報)

在留邦人保護指導に遺憾なきよう管下公館長

へ指示について

南京 8月25日後7時00分発  
本省 9月9日前9時25分着

(緊急)

本使發在支大使館事務所宛電報

合第一七六號

往電合第一七二號ニ關シ

芷江ニ於ケル會談ニ於テハ大臣宛K第二八三號ノ通り重慶

側トシテモ在支邦人ノ保護ニ付考慮ヲ加ヘ又對日輸送ニ付

テモ責任ヲ負フ旨説明セル模様ナルノミナラス皇軍ノ武器

接收ニ付テハ地方治安ノ維持ヲ充分考慮ノ上何應欽ヲ責任

者トシテ之ヲ實施セシムル趣ナルニ付在留邦人ノ保護ニ關  
シ今後更ニ之ト細目折衝ノ餘地アルモノト存セラレ從テ冒  
頭電事態不利ノ危険ハ一應避ケ得タルヤニ存セラル處右ノ  
如キ支那ノ出方如何ニ拘ハラズ在留邦人ノ大多數ハ今次停  
戰ノ結果其居住家屋及職業ヲ失フ結果何レハ引揚ノ已ムナ  
キ事情ニアルコトハ左迄變更無ク旁々地方ニ在リテハ共產  
軍及匪軍等ノ猖獗及交通障碍等今後益々甚タシキモノアル  
ニ付テハ此ノ上其現地軍ト充分ノ連絡ノ上支那側ノ接收方  
針實現ノ可能性竝ニ其時期ノ豫想等トモ睨合セ在留邦人ノ  
定着歸國乃至安全地域集結等ニ付必要ナル措置ヲ進メラレ  
之カ保護指導ニ萬遺憾無キヲ期セラレタシ尙今後ニ於ケル  
支那ノ出方乃至邦人ノ輸送準備狀況等當方ニ於テ判明次第  
逐次電報スヘシ



1133

昭和20年8月26日 在中国谷大使より  
重光外務大臣宛(電報)

重慶側代表到着後における大使館及び総領事

館の役割等につき意見具申

南京 8月26日後8時00分發  
本省 8月26日後11時00分着

第五六六號(緊急)

帝國ノ「ポツダム」宣言受諾ニ依リ南京政府ハ其ノ存在ノ支柱ヲ失ヒ次テ自發的解消ニ依リ自然消滅スルニ至リ本使モ亦對外的ニハ其ノ相手ヲ失フニ至レリ斯カル事態ニ鑑ミ本使ノ進退ニ付考慮ヲ加フヘキハ當然ノ筋合ナリシカ一方大詔煥發ニ當リ聖旨ヲ奉戴シ引續キ在留邦人ノ安定ニ努力スヘキ旨御訓令ノ次第アリ極力管下ヲ督勵シテ之カ實現ヲ圖ルト共ニ本使ノ動靜ニ依リ一般在留者ニ苟モ不安ヲ起サシムルカ如キコトナキ様注意シ來レル次第ナリ然ルニ停戰ニ伴フ在留邦人ノ指導竝ニ全般の措置ニ付テハ累次電報ノ通り一應目鼻付キタル一方今後重慶側カ大使館ヲ相手トセサルヘキハ理ノ當然ニシテ軍ニ對シテモ重慶側ノ期待スル所ハ治安ノ維持竝ニ行政機關ノ混亂防止等ノ範圍ヲ出テス然モ右ハ軍ノ撤收ヲ見ル迄ノ過渡の性質ノモノト存セラル而シテ重慶側代表何應欽ノ到着ハ日晷ノ間ニ迫リ其ノ先遣部隊ハ二十六日以降空輸ニ依リ續々當地ニ進駐スヘク此ノ期ニ及ンテ本使カ尙此ノ地ニ駐スルハ諸般ノ關係上面白カ

ラスト存セラレ又豫テ帝國ノ信義ノ問題トシテ苦心ヲ拂ヒ來レル陳代理主席以下南京政府要人ノ始末ニ付テモ昨日ヲ以テ一段落ヲ告ケ得タルヲ以テ今ヤ本使ノ立場竝ニ大使館ノ機構ニ付適當ノ措置ヲ講スヘキ時期到來セルモノト認ム惟フニ近ク開始セラルヘキ岡村司令官及何應欽間ノ折衝ニ當リテハ軍事ノミニ止マラス居留民ノ問題延イテハ在支邦人ノ産業問題等ニモ觸ルルコト極メテ望マシキ次第ナルヲ以テ大使館職員ノ一部ヲ軍側ニ提供シテ右交渉ニ資スルコト時宜ニ適スト思考セル一方總領事館領事館等ノ存在ニ對シ重慶側ニ於テ公然又ハ事實上異議ナキ限り之等ノ存在ハ軍撤收後ノ情勢ニ於テハ特ニ必要ナルヲ以テ今日ヨリ大使館員ノ一部ヲ以テ之ヲ補充強化シ置クコト肝要ナリ就テハ彼此勘考シ不取敢左ノ通り措置スルコト致度  
一堀内公使以下樞要ノ館員ハ當地ニ留メ新事態ニ於テ必要ト認メラルル事務ニ從事セシムル外總軍側トモ連絡ニ當ラシメ又他ノ一部適當ノ館員ハ總領事館ニ配屬シテ總領事ノ事務ヲ輔佐セシム其ノ他ノ職員ノ措置ニ付テハ大東亞省ノ併合ニ伴ヒ何等御決定アルモノト期待ス尙各事務所員ノ整理配合モ右ニ準ス

1134

昭和20年8月27日 重光外務大臣より  
在中国谷大使宛(電報)

三、在支領事館警察ハ治外法權ノ消滅ニ依リ存在ヲ許サレサルヘキヲ以テ軍ノ武器引渡シト前後シ領警亦私服トナリ領事館員トシテ暫ク在留邦人ノ保護ニ關スル事務ニ當ラシメ後日更メテ之カ全般的措置ヲ考究スルコトト致度

三、大使館ノ看板ハ本月末ヲ以テ撤去シ南京總領事館ノ現廳舎ハ重慶側ノ建物ナルヲ以テ之ヲ返還シ再ヒ現在ノ大使館ニ移轉セシム各大使館事務所ニ於テモ右ニ準シ事務所ノ看板ヲ撤去スル等ノ措置ヲ講スルモノトス

右事情ノ下ニ本使ハ近日中ニ遅クモ何應欽ノ到着以前ニ官舎ヲ引拂ヒ(現官宿ハ舊米國大使館ナルヲ以テ米國軍先遣部隊員等ノ使用ニ充ツル爲明渡シノ要アリ)極ク少數ノ館員ヲ帶同シテ上海ニ赴キ所要ノ事務ニ從事スルト共ニ新局面下ニ於ケル本使ノ心得ニ付本省ノ御訓令ヲ待ツコトト致スヘシ

上海ヨリ上總へ轉報アリタシ  
廣東ヨリ廣總へ轉報アリタシ



傷病兵及び老幼婦女子の引揚につき連合國側  
へ要請について

別電 昭和二十年八月二十七日發重光外務大臣より

在中国谷大使宛第八七號

右要請内容

本省 8月27日後9時發

第八六號(緊急)

大東亞大臣宛貴電第五五五號ニ關シ

一般的ニ支那ニ定着シ得サル在留邦人ヲ生活ノ困難或ハ治安惡化等ノ理由ニテ急キ歸國セシムル要アルコト一應尤モナル次第ナルカ更ニ支那ニハ相當多數ニ上ル傷病兵モアリ且大東亞全域ニ亘ル在留邦人引揚問題ヲモ併セ考究スル要アル次第ナルヲ以テ此等ノ點ヲ考慮シ陸海軍トモ協議ノ結果人道的見地ヨリ不取敢傷病兵及在留邦人中ノ老幼婦女子ヲ歸國セシムルコト適當ト認メ右目的ノ爲目下青島在泊中ノ船舶四隻ヲ使用スルコトトシ(華人勞工引揚船ハ實際上記決定シ居ラサル趣ナルヲ以テ差當リ之ヲ除外セリ)右許可取付方ニ付別電第八七號ノ如ク廿六日聯合國最高司令官宛電報セリ

本電別電ト共ニ北京、上海、青島ニ轉電セリ

(別電)

本省 8月27日後9時發

第八七號(緊急)

目下支那ハ相當多數ノ傷病兵ト老幼婦女子等ノ在留邦人アリ此等邦人ハ或ハ傷病ニ苦シミ或ハ食糧ノ欠乏ニ惱ミ或ハ掠奪暴行ノ危險ニ曝サレツツアリテ日本國政府ハ右ノ如キ邦人ノ狀態ニ付憂慮ヲ禁シ得ス茲ニ聯合國最高司令官ニ對シ右傷病兵及在支邦人中ノ老幼婦女子ノ至急引揚ニ付人道的見地ヨリ好意的配慮ヲ希望スルト共ニ不取敢目下青島ニ在泊中ノ日本國船舶四隻ヲ引揚ノ爲使用スルコトヲ特ニ許可セラレンコトヲ要請ス

1135 昭和20年9月1日

在中國谷大使より  
重光外務大臣宛(電報)

中国側による武装解除及び施設接收に関する  
管下公館長への指示について

南京 9月1日後7時00分發  
本省 9月1日後8時40分着

本使發各大使館事務所長、漢口、九江宛電報  
合第一八七號(緊急)

所謂投降條件ノ内容從テ接收セラルヘキ機關施設及物件等ノ内容ハ正式ニハ近ク東京ニ於テ聯合國側ト帝國政府トノ間ニ調印セラルヘキ場所竝ニ右ニ伴ヒ岡村司令官ト何應欽トノ間ニ調印セラルヘキ文書ノ内容如何ニ依リ決定セラルヘク又舊大東亞省出先官憲ハ「マニラ」會談ノ結果聯合國側ノ要請ニ基キ其ノ任ニ留リ非戰的職務ヲ續行シ且聯合國側ノ占領ニ對シ援助ヲ與ヘ居ル次第ナルコト御承知ノ通リナルカ屢次ノ重慶側トノ會談及其ノ他ノ備忘録ニ依レハ備忘録ノ形式ニテ重慶側ヨリ我方ニ申出テ來リ居ル各種事項ハ重慶側軍隊及行政接收機關ノ進駐ニ伴フ諸準備乃至ハ正式投降調印後實施セラルヘキ諸措置ヲ有效圓滑且敏速ナラシムル爲豫メ準備ヲ進メ置カントノ過渡的又ハ保存行爲的性質ノモノト認メラレ特ニ政治經濟問題ヲ取扱ヒ居ル備忘録第六號ノ如キハ後者ニ屬シ要スルニ文書及資材ノ所在ヲ明確ナラシメ置キテ之カ散逸ヲ防止シ以テ他日ノ接收ニ備



ヘントスルモノナリ從テ右ハ故意ノ物件施設及資材ノ隱匿破壊等ヲ防止セントスルノ主タル目的トシ之カ内容ヲ強行スルコトニ依リ現ニ重慶側カ最も重キヲ置キ居ル(1)和平地區ノ治安ヲ維持シ且蔣介石ノ指定スル部隊指揮官以外ノ者ヘノ投降武裝解除行政機關ノ引渡シ乃至ハ物資ノ分讓等ヲナササルコト(2)公共事業工場等ヲ從來通り經營シ以テ經濟ノ正常ナル運行ト民生安定ヲ阻害セサルコト(居留民特ニ技術者ノ殘留ハ重慶側ノ希望スル所ナリ)等ノ根本方針ニ支障ヲ來スカ如キハ重慶トシテモ希望セサル所ト認メララルル次第ナリ就テハ備忘録第六號ノ處理ニ當リテハ屢次ノ往電竝ニ別電合第一八八號陸軍次官來電等御含ミノ上充分善處セララルル様致度(例ヘハ目録等ノ作成ニ當リテモ假ニ九月六日ナラハ六日ノ日附ノモノヲ作成シ置キ更ニ十五日ニ至リ十五日附ノモノヲ提出スル必要生シタル時ハ其ノ事態ニ即應スル如ク正當ナル根據ヲ示シ適宜調製スレハ可ナリト存ス)

大臣ヘ轉電セリ

1136

昭和20年9月3日

在中国谷大使より  
重光外務大臣宛(電報)

停戦協定に関する事前了解要望事項につき報告

南京 9月3日後9時40分發  
本省 9月3日後10時00分着

合第一九二號(大至急)

岡村軍司令官ヨリ九月一日附ヲ以テ何應欽宛ニ「停戦協定ニ關スル事前諒解事項」トシテ左記ニ關シ協定調印ニ先ンチ充分ナル考慮ヲ拂ハレ度旨書面ヲ以テ要望セリ(詳細ナル理由ヲ附記ス)御參考迄

記

一、武裝解除

(イ)乗船地迄自衛兵器(概ネ銃器、擲彈筒以下)携行(一時借用トスルモノ)致度シ

(ロ)内地迄帶刀帶劍ヲ認メラレ度

二、輸送機關

成ルヘク多クノ船腹(少クトモ五〇萬噸)聯合國側ヨリ借用ス

三、食糧

(イ)現在日本側ニ保有スルモノハ滯留間ノ自活用トシテ保  
持セシム

(ロ)乗船地迄ノ不足分ハ中國側ヨリ補給ヲ受ク

#### 四、統帥組織

最後迄日本軍統帥組織ヲ活用シ之ニ基キ中國側ノ要求事

項ヲ日本側ノ責任ニ於テ一際處理

五、歸國在留邦人

(イ)日本軍ニ於テ同行保護ス

(ロ)優先的ニ選抜輸送ス

本電宛先 北京、上海、廣東、濟南、天津、徐州、青島、

漢口

北京、上海ヨリ夫々北總、上總ニ轉報アリタシ

外務大臣ニ轉電セリ

1137 昭和20年9月4日 在中國谷大使より  
重光外務大臣宛(電報)

#### 降伏文書及び一般命令第一号の内容につき照会

南京 9月4日後4時00分発

本省 9月4日後10時10分着

#### 第五八號(緊急)

三日東京發同盟所報ノ降伏文書及一般命令第一號ニ關シシ  
記諸點折返シ回電アリタシ

(1)備忘録第六號ノ内容ハ降伏文書及命令第一號ノ内容ニ比  
シ廣汎且多岐ニ巨リ居ル處降伏文書五ノ「其ノ委任ニ基  
キ發セラレタル一切ノ降伏命令及指示」及六ノ「其ノ他  
特定ノ聯合國代表者カ要求スルコトアルヘキ一切ノ命令  
ヲ發シ」トハ中國戰區ニ關スル限り蔣介石ニ對シ岡村軍  
司令官何應欽間正式調印ノ際降伏條件トシテ備忘録第六  
號ノ如キ内容ノ要求ヲ爲スコトヲ容認シ居ルモノト解ス  
ヘキヤ(事務所長宛往電(台第一八七號御參照))

(2)(イ)降伏文書ノ五ノ職員トハ陸海軍ノ職員ノミヲ指スモノ  
ト解セラルル處貴電合第六八三號ニ依レハ文官モ聯合  
國ニ依リ特ニ免除セラレサル限り「現在ノ任ニ留マル」  
トアリ兩者ノ關係如何

(ロ)命令第一號ノ一〇ノ占領ヲ援助スヘキ「行政當局」中  
ニハ外務省在支官憲ヲモ含ムモノト解シ居ル處右ニテ  
可ナリヤ

(ハ)命令第一號ハ大本營並ニ帝國政府ノ命令ナリトノコト

ナルカ命令第一號(陸海軍)トナリ居ルハ如何ナル事情ニ依ルモノナリヤ

(3)重慶側ハ領事裁判ヲ認メ居ラサル處條文上ノ解釋トシテハ領警ハ命令第一號ノ「日本警察官」ニハ含マレス領警所有ノ武器ハ一一ニ依リ措置セラルヘキモノト解スヘキヤ或ハ右ニ付テハ重慶側トノ別途話合ニ依ルコトトスヘキヤ

(4)一般ニ武器トハ火器ヲ指稱シ刀劍類ヲ含マステニ軍人ノ帶刀帶劍ハ服装ノ一部トシテ解除シ及ハサルモノト解スルヲ得ルヤ

在支各大使館事務所長、天津、青島、濟南、徐州、漢口ヘ轉電セリ

1138

昭和20年9月4日 在上海土田公使より  
重光外務大臣宛(電報)

陳公博の引渡しをめぐる中国側との折衝振り  
につき報告

上海 9月4日後10時50分発  
本省 9月5日前11時10分着

第五九號(館長符號、緊急)  
谷大使ヨリ

陳公博一行ノ亡命ニ關シ四日ノ上海漢字紙ハ重慶中央社三日發電トシテ相當詳細ニ其ノ事實ヲ傳フルト共ニ當局ニ於テハ直ニ日本軍當局ニ對シ一行ノ引戻方追求スル筈ナルカ去ル二十九日倫敦「ルーター」電カ同盟電ニ依リ陳公博ノ自殺ヲ傳ヘタルハ明カニ日本亡命ヲ「カムフラージ」セルモノナリ云々トノ記事ヲ掲載シ居レルカ之ヨリ先キ客月二十九日南京ニ於テ郡毓麟カ非公式ニ本使ヲ來訪セル際話ノ序ニ日本側ニ於テ陳公博ヲ亡命セシメタル由ナルカ右ハ遺憾ニシテ中國側トシテハ呼戻方要求セサルヲ得スト述ヘタルニ付本使ヨリ陳公博ハ最後迄責任ヲ負ヒ一切ヲ重慶政府ニ引繼ク迄南京ニ踏留リ其ノ後モ市政府ヨリ審問ヲ受クルカ如キコトアラハ喜ンテ受クル決心ナリト親シク本使ニ述懐シ居リタル程ニテ十六日行動隊ノ蜂起ニ對シテモ斷乎トシテ之ヲ處理シ一意南京ノ治安維持ニ任シ來レル態度ニハ寔ニ敬服セリ

然ルニ二十二日ノ夜ニ至リ蔣介石ヨリ祕密ノ傳言トシテ南京政府ノ代理主席タル陳公博カ永ク南京ニ留マルコトハ部

内外ニ對スル關係上面白カラサルニ付暫クノ間南京ヲ離ルルコトヲ希望シ居ル旨傳へ來レルモノアリタル爲陳公博ハ右ハ蔣ノ好意ト解シ急ニ日本ニ赴クニ決心セリトテ我方ニ援助ヲ求メ來レルニ付遽ニ出發セシメタル次第ニテ其ノ後無事到着セルヤ否ヤハ消息ナシ

陳公博トシテハ最近周佛海、任援道等ノ幹部力重慶トノ連絡ノミ汲々トシテ一人取殘サレタル形トナリ甚タシキニ至リテハ行動隊ノ襲撃說等サエ傳ハリ一人淋シキ心境ニアリタルモノト察セラレ陳公博ハ汪主席逝去後夙ニ「黨ハ分ルヘカラス國ハ統一スヘシ」トノ「スローガン」ヲ掲ケ重慶

南京ノ合流ノ基礎ヲ作ルニ苦心スルト共ニ共產黨ノ進出ヲ防ク爲終始防共工作ニ專念セルコト御承知ノ通ナリ

元來南京政府ノ樹立ヲ慫慂セルハ日本ニシテ吾々カ同氏ノ希望ニ應シ之ヲ救出スルハ情ニ於テ當然ノコトナリ假ニ貴下カ吾々ノ立場ニ立チテ考フレハ思ヒ半ハニ過クルモノアルヘシ中國側カ假ニ日本側ニ之カ引渡ヲ要求スルトモ日本トシテハ輕々ニ之ヲ聽取シ難カルヘシ「ポツダム」宣言ノ條項ニ照スモ其ノ義務ナキモノト認メラルト告ケタルニ邵ハ右蔣介石祕密ノ傳言ナルモノカ果シテ眞ナリヤ否ヤ明カ

ナラサルカ兎モ角總軍當局ニ對シ一行ノ呼戻方要求スル心算ナリト述へ夫レ以上深入リセストテ語ヲ打切りタリ

本件ニ關シ今後重慶側カ如何ナル態度ニ出テ來ルヤ不明ナルカ本使ヨリ邵ニ傳へタル通陳公博ハ中國國內ノ政治犯ナリトノ確約ハ成立ツヘキモ「ポツダム」宣言ノ所謂戰爭犯罪者其ノ他如何ナル條項ニモ該當セサルモノト認メラレ當國ノ信義ヨリ言フモ之ヲ輕々ニ取扱フコト能ハサルモノト存セラル既ニ御氣付ノコトト存スルモ爲念

南京ヨリ總軍側ニ連絡アリタシ  
支へ轉電セリ

1139

昭和20年9月5日

在中國谷大使より  
重光外務大臣宛(電報)

陳公博渡日に関する中国側への対応振りについて

南京 9月5日午後5時00分發  
本省 9月5日午後10時10分着

(緊急、館長符號)

邵毓麟二十八日本使ヲ來訪ノ際陳公博一行ノ消息ヲ(一行先ハ承知セサル様子ナリシモ日本側ノ斡旋ニテ二十五日南京

飛行場ヲ出發セルコト及一行中ニ陳君慧、林柏生、周隆庠等ノアルコトハ既ニ承知シ居ル様見受ケラルル頻ニ氣ニスルト共ニ重慶トシテハ同胞ノコトニテモアリ國民黨要人ノ身柄ニ付テハ日本人以上ニ心配シ居リ日本側ニ於テ餘計ナコトヲセラルルハ却テ本人ノ爲ニ非ス至急所在及離寧前後ノ事情等ヲ明カニセラルルコト可然旨述ヘ居リタルニ付其ノ後總軍側トモ連絡ノ上今後重慶側ヨリ質問アリタル際ハ(其ノ後質問シ來ラス)「陳公博ハ最後迄南京ニ踏留マリ和平地區ノ治安ヲ維持シ政務委員會ヲ完全ニ重慶側ニ引渡ス決心ナリシカ最後ノ土壇場ニ至リ重慶側首脳部ヨリ極秘連絡アリタル模様ニテ離寧セル由ナルカ自家用飛行機ヲモ有シ居リ其ノ行先、一行ノ氏名等ニ付承知セス」トノ趣旨ニテ口ヲ合セルコトニ打合せ置キタル處右ニ付陳公博トモ御打合せノ上何等御異見アラハ折返シ御回電アリタシ

尙五日當地漢字紙ハ三日重慶發(蔣ハ一日事務連絡ノ爲重慶ニ歸レリ)中央社電トシ別電<sup>(省電)</sup>ノ通り報シ居レリ

追テ一行ノ渡日カ我方ニ依リ裏付ケセラルルカ如キコトアリテハ面白カラサルニ付當地軍ニ於テハ渡日ヲ推測セシムルカ如キ書類(電信帳簿ヨリモ抹殺セリ)ハ一切之ヲ處分セ

ルニ付貴方ニ於テモ可然御措置相成度爲念  
本電ノミ上海、北京、青島、漢口へ轉電セリ

1140

昭和20年9月6日

在中国谷大使より  
重光外務大臣宛(電報)

在留邦人保護に関する日本側申入れ及び重慶側の反応について

南京 9月6日午後6時40分発  
本省 9月6日午後10時30分着

第七二號(館長符號扱、大至急)

貴電第九四號ニ關シ

四日涉外部ノ會同ニ於テ慎重協議ノ結果御來示ノ内容ヲ多少修文ノ上岡村司令官ヨリ何應欽宛書面ヲ以テ

「停戦ニ件フ善後措置ニ關聯シ差當リ左記諸點ニ付充分ナル御考慮ヲ拂ハレ度ク稟議ス

記

一、在留邦人ヲ差別待遇セス定着ヲ可能ナラシメラレ度

二、總領事館、領事館ノ存續ヲ認メラレ度

三、在華本邦平和事業ヲ認メラレ度

四、公共事業重要事業ノ現機能ヲ低下セシメサル如ク特ニ過渡期ノ資金、資材、勞務、輸送等ニ付速ニ格段ノ配慮アリ度ク尙之カ爲日本人ノ技術及經營技能ヲ充分活用セラレ度

五、日本側經營ノ諸學校、醫業團體等ニ付テハ其ノ經營ヲ存續セシメラレ度

ト申入ルルコトニ打合セタル處偶々前進指揮所ヨリ管下宛往電合第一九二號ノ我方書面ヲ返却シ來レル外(日本側ノ苦衷ハ諒トセラルルヲ以テ出來得ル限り好意的ニ取計度キ考ナルモ正式書面ヲ以テ申入レラルルコトハ最高部ノ立場ヲ困難ナラシメ却テ日本側ノ爲ニナラサルニ付取止メ度ト稱ス)前進指揮所ヨリ出テタル情報ニ依レハ何應欽ヨリ「日本人殘留ノ範圍ハ技術文化及日支兩國ノ繁榮ニ必要トスル人材ニ限ル」旨日本側ニ申入方指示アリタル趣ニモアリ本件折衝ハ暫ク重慶側ノ出方ヲ見ルコトトセリ  
追而何應欽ハ九日頃來寧ノ豫定ト云ハル  
各大使館事務所長、漢口、天津、濟南、青島、徐州へ轉電セリ

1141

昭和20年9月8日  
重光外務大臣より  
在中国谷大使宛(電報)

降伏文書及び一般命令第一号に関する照会への回答

本省 9月8日後0時発

第一一號(緊急)

貴電第五八號ニ關シ

一、貴電(1)ニ關シ

降伏文書及一般命令ハ我方降伏實施ノ根本原則及大綱ヲ定ムルニ止マリ固ヨリ總テノ細目ヲ「カバー」シ居ラス且必スシモ各地域ノ實情ニ即應シ居ラス聯合國最高司令部トシテハ地域の細目ハ地方的取極ニ一任セントスル意嚮ナルモノノ如ク且地方的取極ノ内容ヲ何ノ程度迄「コントロール」シ居ルヤ疑問ナリ從テ備忘録第六號カ前記兩文書ニ比シ内容廣記且多岐ニ亘ルハ當然ニシテ貴見ノ通り降伏文書第五項ハ重慶側カ右備忘録ノ如キ要求ヲ爲スコトヲ容認シ居ルモノト解スルノ外ナシ但シ中央ニ於ケル聯合國側トノ折衝ニ鑑ミルモ一般命令ノ適用ハ相當伸縮性アルモノト認メラレ當方ニ於テモ折角實情ニ即セ

シムル様努力シ居ル次第ナルニ付現地ニ於テモ前記備忘録其ノ他今後重慶側ヨリ提示シ來ルコトアルヘキ命令、指示等ニ對シテハ疑義アラハ之ヲ訊シ實情ニ即セサル點アラハ之ヲ率直ニ指摘シ重慶側トノ話合ニ依リ其ノ圓滑ナル實施ヲ計ララル様致度尙御照會ノ降伏文書第六項ノ「其ノ他特定ノ聯合國代表者カ要求スルコトアルヘキ一切ノ命令」トハ日本政府又ハ大本營ノ命令ヲ意味シ聯合國側ノ發スル命令ニ非サルニ付爲念

二、貴電(2)ニ關シ

(イ)降伏文書第五項ニハ「一切ノ官廳、陸軍及海軍ノ職員」トアリ陸海軍ノ職員ノミナラス文官ヲ含ムモノナリ

(ロ)貴見ノ通り

(ハ)一般命令第一號(陸海軍)トアルハ本命令カ主トシテ陸海軍ニ關係スル事項ヲ内容トスルモノナルコトヲ意味ス

三、

一般命令第一項ニ依レハ武裝解除條項ノ適用ヲ免ルルハ「日本國本土内ニ在ル」警察官ニ限定セラレ居リ從テ條文解釋トシテハ領警ヲ含マサルモ一方領警ヲ第十一項ニ謂フ「一般日本國民」ト同一視スルモ無理ナリ仍テ領警

ノ携帯武器ノ處置ニ付テハ各現地ノ治安維持ニ對スル領警ノ職權、居留民保護ノ必要等實情ニ應シ重慶側トノ話合ニ依リ實際的解決ヲ計ララルコト適當ナリ

四、一般論トシテ武器ヲ火器ノミニ限定スルハ困難ナリ唯聯合國側ニ對シ軍人殊ニ將校ノ帶劍ハ軍人ノ名譽ノ問題トシテ之ヲ認ムル様申入レ濟ミナルモ今日迄回答ニ接セス且聯合國側ノ實際上ノ取扱モ區々ナリ此ノ點ニ付テモ別途重慶側ト話合ノ餘地アルモノト認メラル

冒頭貴電通り轉電セリ



1142

昭和20年9月9日

在中國谷大使より  
重光外務大臣宛(電報)

陳公博引渡しに關する何応欽申越しについて

別電 昭和二十年九月九日發在中國谷大使より重光

外務大臣宛

右申越し内容

南京 9月9日午後0時20分發  
本省 9月9日午後0時30分着

(緊急、館長符號)

八日附備忘録ヲ以テ陳公博ノ件ニ關シ何應欽ヨリ岡村軍司令官宛別電ノ通申越セリ(誤字及事實相違ノ點アルモ原文ノ儘)先方ニ對シテハ不取敢簡單ニ日本政府ニ轉達方取計フル旨回答スルコトセル處何分ノ儀折返御回電アリタシ(本電及別電陸軍省ニ傳ヘラレ度)

上海へ轉電セリ

(別電)

南京 9月9日後0時00分發  
本省 9月9日後1時00分着

(緊急、館長符號)

事由

報告ニ依レハ日本同盟社ハ八月二十九日僞國民政府代理主席陳公博カ自殺死去セル旨發表セリ然レトモ我方ノ南京ニ於テ獲得セル確實ナル報告ニ依レハ逆賊陳公博、林柏生、何炳賢、陳君慧、岑德廣、周隆庠及女祕書白國光等七名及日本軍將校雄川ハ八月二十五日朝日本側ヨリ派遣ノ飛行機ニテ極祕裡ニ日本九州ノ米子ニ赴キタル由ナリ(マ) 查スルニ陳公博等ハ皆中華民國ノ叛國罪犯ナルニ依リ貴官

ハ責任ヲ以テ日本政府ニ轉達シ速ニ逮捕シテ南京本總司令部ニ護送セシメラレタシ

1143 昭和二十年9月9日 在中国谷大使より  
重光外務大臣宛(電報)

中国での降伏文書調印について

別電 昭和二十年九月九日發在中國谷大使より重光外務大臣宛

中国戦区最高統帥命令中の外務省関係事項

南京 9月9日後2時00分發  
本省 9月9日後6時00分着

合第一九五號(緊急)

九日午前十時軍官學校ニ於テ何應欽ト岡村軍司令官(艦隊長官、臺灣軍及佛印軍參謀長帶同)トノ間ニ降書ノ調印ヲ了セリ尙其ノ際先方ヨリ手交セラレタル中國戦區最高統帥命令第一號(主トシテ軍關係事項)中外務省出先官憲ニ關係多キ條項別電合第一九六號ノ通り(一九七五)

本電宛先 北京、上海、廣東、漢口、天津、青島、濟南、徐州、太原、厦門



大臣へ轉電セリ

(別電)

南京 9月9日後2時00分發

本省 9月9日後6時00分着

(合第一九七號(緊急))

最高統帥命令中關係條項

一、別命アルモノヲ除キ本委員長ニ投降セシ日本軍ハ其ノ所

屬軍民ニ對シ衣食住及醫藥品ヲ供給スヘシ

二、日本軍及日本軍ノ統制區ノ軍政當局ハ左記各項ヲ保證ス

ヘシ

一切ノ陸海空交通及運輸ニ關スル機械設備ハ完全ニ保持

スヘシ

三、本委員長ニ對シ投降セル各日軍司令部各區受降主管ノ命

令ニ準據シ各該區日本居留民ノ姓名住所ヲ報告シ且該居

留民ノ所持スル一切ノ武器ヲ接收スヘシ

尙該居留民全體ニ對シ本委員長ノ代表タル何應欽大將ノ

指定スル官吏カ處置ニ關スル命令ヲ發セサル以前ニ於テ

現住地或ハ指定セル地點ヲ離レサル様通知スヘシ

四、日軍及日軍統制下ノ一切ノ軍政官員ハ本委員長ノ代表タ

ル何應欽大將ノ指定セル軍隊ニ協力シ臺灣、佛印、北韓

十六度以北ノ地區及中華民國内日本軍占領地ヲ恢復スヘ

シ

五、本命令ニ規定セル各項及本委員長ノ代表タル何應欽大將

カ爾後ニ於テ發スル命令ハ日軍及日軍統制下ノ一切ノ文

武官員及人民ノ即時謹シミ服従スヘキモノナリ

六、本命令或ハ今後ノ命令ニ規定セラルル各項ニ對シ若シ遲

延或ハ施行スル能ハス或ハ本委員長及何應欽大將ニ於テ

聯合國軍側ヲ妨害セルモノト認メタル場合ハ直ニ其ノ違

反者及負責將校ヲ嚴罰ニ處スヘシ

本電宛先、北京、上海、廣東、漢口、天津、青島、濟南、

徐州、太原、廈門

大臣へ轉電セリ